

C-BTE テキスト「基本原則シリーズ」に取り組むに当たって

C-BTE パラダイム「教会主体の神学教育・次世代育成」に関心を持ち、「基本原則シリーズ」をお求めいただき心から感謝を申し上げます。

有効に用いていただくために、参考までに取り組み方についてのポイントを紹介いたします。

■ はじめに ～「パラダイム」について～

「パラダイム」とは、一般的に「ある時代に支配的なものの見方、考え方のこと」と解され、同時に時代と共に変遷しています。

クリスチャン信仰の在り方も、人間の知的活動（哲学や経済観念など）の成果に影響されて聖書を読み、神学大系を作り上げ、信仰や教会の在り方を形作ってきました。さらに各教会の所属する教派の伝統が、今日の生き方に反映されています。

そうした私たちの思考の枠組みを客観的に見定め、また時代の大きな変革にも焦点を当て、改めて聖書に戻り、聖書のパラダイムに注目します。そのようにして明らかにされたものの一つが「基本原則シリーズ」であることに注目してください。

■ 学習者、学習の目的

「基本原則シリーズ」は学ぶ者に制限はありませんが、前提としてキリストの福音を信じたクリスチャンが、与えられた新生のいのちに基づいて、これからのクリスチャン人生をどのように建て上げていくかについて、聖書の基本原則に基づいて共に考えるための学習シリーズです。

■ 学習の進め方

1. 学びの準備

学びを導く方が牧師であれば、「基本原則シリーズ」を構成した背景、根拠についてまとめてある指導者の手引『基本原則を教える』をあらかじめ読んでいただくと、より実りある学びを進めることができます。

まず、各テキストのはじめの部分にある「基本原則シリーズ」の項を学習者と共に読み、要点を確認して下さい。中でも「学び方の概要」は、第一課から第五課ま

で、各課を取り組む際に確認されることをお勧めします。各学習者にその意図をしっかりと捉えるようにして、各課にお進み下さい。

2. 学びの初めに

いよいよ学びに入ります。一冊ごとに大きな論点が表題に込められています。たとえばシリーズ1-1『主の弟子になる』のように、大きな論点を表題から読み取れます。その論点の問題提起として「まえがき」の後にある「序文」を丁寧に読んでください。考える視点が与えられます。その大きな論点に関係する五つの論点が、一課から五課にかけて取り組むように構成されています。

基本原則シリーズは「学習者主体」、「習熟度」に従って進める学習ですので、学びに入る前提条件として、学習者は予習して参加することです。その予習が確実であれば一回の学びで一課毎に進めることができますが、これまでにない手法でもありますので、各課を二～三回に分けて取り組むのが有益と思います。予習を考えると、慣れるまで一週間に一度のペースで進められれば良いと思います。

3. 各課の学びの段階

はじめに、各課の〈前書き〉部分を共に読み、問題意識を共有して下さい。

〈みことばを学ぶ〉

指定された聖書箇所を丁寧に何度も読み、著書の意図を探ります。〈みことばを学ぶ〉の主たる目的は、次ページに大きな空欄が配分されている箇所に、指定の聖書箇所から「中心的な教え」を読み取り、まとめ、記すことです。

そのために、その前の「質問を読んでよく考えてみましょう」があります。いくつかの問いがありますが、これは隠された解答を見つけ出すことではなく、先に記した「中心的な教え」を見出すために、先入観から解放され、多角的に聖書箇所を考えるための問いと考えてください。

初めのうちは、予習の上、その問いを互いに考え、発言し、聞き、そして再考しながら中心的な教えを探り当てる方向に進められるのも一つの方法です。

質問は多角的に考えるためであって、正解、あるいは模範的な解答を話さなければという誤った前提が、互いに話したり、聞き合ったりということができなくしている場合があります。ここでも学習者主体、習熟度に応じて進めるという手法に焦点を当てていただければと思います。

また、教会主体、そこにある神の家族が互いにみことばの真理を見出せるように、互いに謙虚に、建徳的に取り組みます。知識のある人はおごらず、互いを建て上げるという視点から根拠を明確にして発言します。

注意点として、次の「文献に当たる」の中に解答があるように考える方がありますが、それは錯覚です。まず啓示された聖書、書き記された聖書に向き合って、共に考え、話し、修正し、聖書の意図、その著者の意図を探り、その箇所を中心的なメッセージを捉えることです。その上で批評的に文献に当たり、理解を深めます。もちろん私たちは聖書の意図を明確に解き明かした先人たちの功績を大切に、聖書の権威を優先しながら学習を進めます。私たちは聖書の意図を的確に解き明かした先人たちの功績を大切に学習しながらも、聖書の権威を優先し、学びに取り組みます。

<文献に当たる>

指定された聖書箇所の中心メッセージを捉えた上で<文献に当たる>を整理し、その課題や論点を明らかにします。

<文献に当たる>は二つ、聖書箇所の注解と、その論点に関する文献の引用文で構成されています。ただ鵜呑み、つまり聖書箇所を十分考え、吟味せずに、そのまま取り入れてしまうこのないように、むしろ批評的に扱って下さい。その上で確信づけられれば感謝です。

ですから、<みことばを学ぶ>と<文献に当たる>を一緒に取り組むか、あるいは<みことばを学ぶ>に十分に時間を取り、力を入れて、次の予習で<文献に当たる>に取り組み、そして次の<論点を考える>の時に皆で文献の要点をまとめ、その上で<論点を考える>に取り組むのも一つの方法です。色々、取り組みやすい方法を試してみてください。

<論点を考える>

各課に「論点」が明示されています。その論点について問答するために、学習者が予習し、問答に備えるためにいくつかの問いが記されています。学者者が一緒に問答するために論点をあらかじめ考え、深めるために備えるための問いです。論点をしっかり思考の中心に据えて、各問いを読み考えます。そして、考えたことをまとめ、メモしておきます。

その上で当日、学習者が共に問答するわけですが、これが C-BTE パラダイムの特色ある学習の手法です。学習者主体を意識しながら、また習熟度に応じた学びであることを念頭に、共に考え、推論し、発言・質問し、根拠を確認し、そして修正し

たり、さらに明確な理解へと進みます。揺るがせない聖書の原則の理解、信仰の先人たちがどう考えたのかという視点から文献の要点を思い起こし、自分たちの置かれている状況などを考えながら論点を深め、そしてさらに発展させます。

ここで大切なのが学びを導く指導者の、学習者への質問、問いかけです。司会者、学習を導く方は有効な問答が成立するために、聞く能力、質問する技能などを身につけていかなければなりません。理屈だけでなく、体験的にその問答の手法を学び取っていくことが大切です。『基本原則を教える』の第四課にある技能の3「ソクラテス式問答を導く」を参照して下さい。

そして、問答を終え、自分で考えたことと、主にある兄弟姉妹と共に考えたことから、新たに理解し得たことなどを整理して終わります。

<基本原則を適用する>

「最初の三つの段階を思い起こしてみましよう」とあります。つまり、①<みことばを学ぶ>、②<文献に当たる>、③<論点を考える>です。その上で自分自身、考え方の整理をし、どう行動に、生活様式に取り入れていけるかを明確にまとめ、祈ります。

皆さんの取り組みに、真理の御霊が豊かに働かれますように祈ります。

御教会において、文字通りキリストの「からだは一つ」「御霊は一つ」「信仰は一つ」「望みは一つ」、「神の御住まい」としての教会が建て上げられますように。

C-BTE リソースセンター 仙台バプテスト神学校

(2016年9月)